

## 第25回 宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日時：平成28年10月25日（火） 10：00－12：00

2. 場所：内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、松井部会長代理、青木委員、下村委員、松尾委員、薬師寺委員、山崎委員、渡邊委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

高田事務局長、佐伯審議官、松井参事官、高見参事官、佐藤参事官

(3) 関係省庁等

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課企画官

奥野 真

外務省国際協力局政策課長

中村 仁威

外務省総合外交政策局宇宙室長

齋藤 敦

4. 議事要旨 (○：質問・意見等 ●：回答)

(1) 宇宙分野における海外展開及び能力構築支援について

資料1-1に基づき事務局から説明を行い、資料1-2に基づき外務省から説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。

- 宇宙システムを海外に展開するとともに開発途上国への能力構築支援を官民一体となっていくということ、全体としてすばらしい取組であると考えている。
- 米国、欧州などが行ってきた海外展開の成功事例を参考に取組を進めてほしい。
- 官側では2年程度で人事異動があることを念頭に、官民一体で継続的に取組を進めていくためにも、持続的な体制の構築が必要である。
- 資料1-2に関連し、トルコにて官民で連携してエンジニア等の指導等を行ったことは、協力関係の構築に加え、開発途上国への能力構築支援・人材育成の観点でもよい取組だったと考えており、紹介したい。
- 継続的な取組のためにも、目標設定をしてPDCAサイクルを回すことが肝要。これにより民間企業からの投資も期待できる。

(2) 小型・超小型衛星に係る取組について

資料2-1に基づき事務局から説明を行い、資料2-2に基づき文部科学省から説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。

○大学の研究室などは学生の卒業などの明確なタイムリミットなどもあり、打上げ機会が少ないとの声をこれまで耳にしてきている。このような取組により打上げ機会が増えることはよいこと。

○資料2-2のP3について、イプシロンでの小型・超小型衛星の打上げができない場合には、国際宇宙ステーション（ISS）からの放出やH-IIAの相乗りなど他の打上げ機会を検討するということか。

●具体的な枠組み等は検討中であるが、打上げニーズにあわせて的確に打上げの機会を提供していきたいと考えている。

(3) 宇宙産業振興小委員会における検討状況について

事務局から、これまでの宇宙産業振興小委員会の検討状況について、資料3及び参考資料1に基づき説明を行った。

(4) 宇宙産業・科学技術基盤部会における工程表の改訂について

事務局から、平成28年度の宇宙産業・科学技術基盤部会関連工程表改訂の方向について説明があった。説明の後、以下のような意見等があった。

○宇宙産業及び科学技術の基盤維持・強化に向けて、長い目で見た研究が大切であり、その観点での充実をしていただきたい。

○予算などリソースに限りがあるので、分野間の連携や、今後の発展性が見込まれる先駆的な取組などを盛り込んでいただきたい。

○工程表の改訂に向けて、探査の分野等では、今後の進むべき方向性など本質的な議論を行う必要がある。

以 上